

「福田村事件」を 知っていますか？ その6

千葉県内には、長年にわたって虐殺の証言・証拠を集め、勉強会や慰霊祭を行っている「千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会」という会があります。代表の吉川清さんや平形千恵子さんらの粘り強い活動で、いろんな事実が明らかにされてきました。

この会の会報「いしづみ」が情報源となり、徐々にマスコミも取り上げるようになったのです。



1983年に刊行された『いわれなく殺された人びと』（青木書店）は、多くの人に衝撃を与えました。

一番驚いたのは、軍が収容した朝鮮人を村人に払い下げ、殺させたという事実です。払い下げられた朝鮮人を前に、どうしたものかと悩み苦しむ村人の様子がなまなましく伝えられています。

同会は、1983年より八千代市高津区の観音寺で毎年慰霊祭を行っており、1998年には、「なぎの原」に埋められた犠牲者の遺骨（6体）を発掘、洗骨し、埋葬しました。翌年には立派な慰霊碑が建立され、そのときの慰霊祭には、私たち夫婦も出席しました。

そのほかに、「社団法人ほうせんか」、「関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会」、事件の真相を明らかにし、それを公表することを日本政府に求める「関東大震災朝鮮人虐殺の国家責任を問う会」なども活動しています。

これらのグループとの交流を通して、福田村事件が少しずつ明るみに出て来た経緯を知りました。

辻野弥生（つづく）

成人式で訴え

9条の会・流山は1月7日キッコーマンアリーナで行われた成人式に参加する若者たちに「憲法九条を守ろう」と呼びかけました。



はかま姿に茶髪の陽気な男性グループは九条を守りましょうとチラシを渡すと「あ、九条。」とすんなり受け取った。一方で別の青年は「憲法ってなに？」とどうやらほんとに知らない様子。この人たちは昨年初めて国政選挙で投票したはずなのだが。参加者は11人(写真は8人ですが)

1月9日のハプニング

踊るような青年のチラシまき

9条の会の定例のピラマキ、署名活動の日、一人の青年が前の日に成人の皆さんに配られた「成人式おめでとう」の9条の会のチラシを配らせてください、と言ってきました。20歳前ぐらいの青年がグループでおおたかの森駅コンコースを通りかかったなかの一人です。

彼はマイクを握る女性にピッタリ寄り添い、読み上げる原稿を覗き込んでいました。そして、僕も配りたいと言ってきました。青年はチラシを持つとまるで米画「ウエストサイド物語」に出てくる若者がダンスしているように、コンコースの中を駆け巡りました。そしておばあさんに孫のようにやさしく話しかけ、チラシを渡しました。私たちには「いらないよ」と言うように受け取らなかったのに、受け取ったのです。青年は手を大きく広げて、「やった！」とポーズをとり、続けて女子生徒に駆け寄ってピッタリ寄り添い受け取らせました。女性には笑顔が見えました。こうして青年は踊るようにコンコース内を走りチラシを配っていきました。私たちが定点に立ってチラシを配っているのに（静）、青年は走りながら相手に近づき、配っていました（動）。若さというのはいいですね。動によって、明るさ、華やかな雰囲気その場に広がりました。 通行人の1パーセントにもならない人しかチラシを受け取ってくれないのに、青年は配っているのです。受け取らない人に受け取らせているのです。新しい人に接近している。 国民投票になれば、固定票だけではだめです。もっともっと多くの未知の人に知ってもらわなければ、勝てないのです。今日のハプニングは私たちも幸せにしました。終わったとき、青年よありがとうの拍手がみんなのなかでおこりました。新年にふさわしい門出になりました。(M・G)



こんな横断幕を買いました。ご利用下さい。